

2017年度卒塾生 気配り

2017年度卒塾生。昨年3月から続けさせていただいたシリーズも、いよいよ最終回となりました。12人目となるラストを飾るのは男子です。これまでの11回をお読みいただいた方はお気づきだったかもしれませんが、ここまで全て女子でした。そう、実はこの学年、男子は一人だったのです。11人の女子の中に一人の男子……。塾の間だけのこととはいえ、これはなかなか耐えられるものではありません。完全に一人を決め込んで話しかけるなオーラを出すようにするか、はたまたいっそ女子化して仲間に入るか、どちらかに傾きそうなものです。

ところが彼は、変につっぱることも、媚びることもなく、実に自然にその中に存在していました。ともに冗談を言って笑い合い、雰囲気壊すような態度は決して取らず、出しゃばるわけでもなく必要のない時は一人黙々と勉強している。でも、男気があるためみんなを守る意識が根底に流れていて、帰りのエレベーターに乗り込むのはいつもみんなを乗せたあとの一番最後。さらに帰るのも、一人で残る子がいないよう、みんながそれぞれの車に乗ったのを見届けてからでした。何かの都合でお迎えが遅くなった子には一緒にいてあげていました。会話のセンスも抜群で、小6の3月、塾に来始めのころ、彼の兄が卒塾したてで高校合格直後だったこともあり、「お兄ちゃん元気？どうしてる？」と尋ねた私に、すかさず「はい、俺の部屋まで使って遊んでいます。」と、おもしろおかしく答えたのには驚かされたものです。

努力家というわけでもないのに成績は3年間を通じてほぼ学年一桁。“男子の中での1番”というのがささやかなプライドで、その場所を譲るわけにはいかないけれど、それより上位は塾の女子に任せて自分は涼しい顔をしている。足の速さは学年で1、2を争うほどで、部活のサッカーにはまっすぐに取り組んでいる。クラスの行事にも誠実で、みんなの信頼を集めている。と、ここまで書くとまさに「できすぎ君」なのですが、彼はいつもいつも謙虚でした。

周りに気配りができる人間というものは常にアンテナを高く立てていて、いろいろなものが目に入ります。言いたいことがある時も言葉を厳選し、相手に決していやな感情を抱かせないよう気遣います。本人はちょっぴりしんどいこともあったでしょうが、彼の大きなやさしさはみんなをあたたかい空気で包んでくれていました。今、彼が千種高校に入って大好きなサッカーを思いっきり楽しんでいることを聞いて、私は何よりもうれしく思っています。

2017年度卒塾生、みんな本当に素敵な塾生でした。一年間、書かせてくれてありがとう。これからも他の卒塾生同様、ずっとずっと塾から応援していますよ！良い人生を！！